



2024年5月25日
第182号

JR 東労組 Yokohama

JR 東労組横浜地本
発行人 助川一実
編集 情宣担当
ホームページ
<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



イーハトーブ

5月25日号

5月16日に経営再建中の東芝が再興計画と銘打ち、中期経営計画を発表した。効率化・コスト削減などが盛り込まれているが、注目すべき点は11月までに従業員の4000人削減である。経営のトップは「苦渋の決断」「再興を実現するために渾身の力を込める」とコメントしているが、この責任は誰に向かうのか。人員削減がされれば残された従業員に責任が転嫁される。残るのか辞めるのか「苦渋の決断」をするのは労働者だ。その場に立たされた時に私たちは「苦渋の決断」ができるのであろうか。労働者は働くことでしか生きていけない。どんな時代でも構造改革の犠牲になるのは労働者であり、その家族なのである。経営陣の判断ミスが招いたこのような状況でも決して経営陣が責任を取ることは無いのだ。

「経営戦略の失敗＝人員整理」。JR東日本は現在、「変革」と称して効率化施策を進め、同時に生活ソリューション事業の比率を高めるために大規模開発が進められている。この施策が計画通りにいかなければどうなるのだろうか。経営は責任を取らず、労働者と家族が犠牲になるだけなのだ。あなたは人員整理されない自信はあるのだろうか。労働組合に所属していない労働者は無力だ。まず先に人員整理の対象になる。抗うこともできず切り捨てられるだけだ。

会社のやろうとしているものに只々流れに身をゆだねるのではなく、自らの将来や家族の幸福のために施策に向き合い議論しチェック機能としての役割を果たしていこう。(Y・N)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちが外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。